

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書(案)

令和7年2月26日
札幌市立前田北中学校

1 本年度の重点目標

- (1) 授業の工夫と授業評価
- (2) 学級力・学年力・学校力の向上 ～前田北中らしい教育活動の一層の推進～
- (3) 教職員の相互支援
- (4) 家庭や地域との関わり ～校種間・学校間の連携→小中一貫した教育の充実～

2 本年度の経営方針

- 地域に根ざした学校、活力と潤いのある学校を目指して、全教職員が専門職としての自覚と誇りをもち教育活動を推進する。
- (1) 教職員相互の協体制を基盤とする学校運営
 - (2) 生徒一人一人を大切に教育活動の推進
 - (3) 保護者・地域・関係機関との連携による学校教育の充実
 - (4) 本校の文化の継承と新たな学校づくりへの意欲的な研究開発

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の取組の適切さ
学校運営	学校は教育目標・教育方針をわかりやすく伝えている。	A	A 教職員一人一人が伝えるとともに、意識した支援・指導を行っていく。 各種たよりによる積極的な発信に加え、ホームページ上での情報発信も継続していく。また、学校・保護者間ツールを活用していく。 今後も参観等の機会を適切に設けていく。 今後も、生徒自身が考える場面を設けるなどして、情報提供を行っていく。 今後も、安全で整った教育環境の整備に努める。冷房設備が整うまで、冷風機等を活用していく。災害等、非常時の対応について、常に危機管理を意識した見直しを行っていく。 PTA活動への理解を深めながら、生徒の活動を支える組織として、活動内容についても検討していく。	A	A
	学校は各種たよりや学校ホームページで、家庭への情報発信を積極的に行っている。	A			
	学校は保護者や地域に授業や行事など教育活動を参観できる機会を適切に設けている。	A			
	学校は進路や職業について適切な指導を行い、情報提供を行っている。	A			
	学校は施設・設備の整備に努め、安全で整った教育環境をつくっている。	A			
	PTA組織や活動は適切である。	A			
学校関係者評価委員会からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・各業態で働き方改革がテーマになっています。前田北中学校にあっても、先生方の働き方が変わっていると思います。どこにしろ寄せが出るか心配しています。地域やPTAなどにも影響があり、これまでとは異なる対応が必要と思います。 ・学校の施設設備については、保護者・教員でC評価が他の項目より多い傾向があり、エアコンの整備や危機管理について改善点が挙げられているのは的確だと思います。 ・キャリア学習などで、実体験できる学習活動は子どもたちにとって、大きな意味のある活動となっていると思います。 				
学習指導	学校は学習評価についてわかりやすく伝えている。	A	B 全教職員の共通理解のもと、適切に評価している。次年度以降も生徒一人一人の学習状況を的確に見取る評価方法や伝え方について更に改善していく。 生徒の学習状況をしっかり把握し、基礎・基本の定着を図り、生徒が「分かる・できる・楽しい」を実感できる授業改善に努める。また、ICTや体験的な活動を取り入れた「課題探究的な学習」の充実を図り、生徒の学習効果の向上を目指し、次への意欲を高めていく。 適切な課題を与えるとともに、学力を定着させるための家庭学習の必要性を伝え、家庭の協力を得ながら学習習慣の定着を目指す。	A	A
	学校は生徒の学習の様子を適切に評価している。	A			
	学校は指導方法や教材等を工夫して、わかりやすい授業づくりに努めている。	A			
	学校は生徒の学習意欲を高める授業を行っている。	A			
	学校は宿題や課題を適切に与えている。	A			
	学校は生徒の家庭学習習慣の定着に努めている。	B			
学校関係者評価委員会からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校においても、家庭学習への自主的な取組や習慣化は課題になっています。各教科の授業における課題への確実な取組はもちろんですが、まさに、必要感をどうもたせるか、日々の関りや成功体験が大切だと考えます。 ・学校での体験的な学習は、子どもたちにとって大変意味のあるものであると思う。日頃の学校での学習活動の成果が、家庭で行う学習習慣につながってくれればと感じます。 				

生徒指導	学校はいじめや問題行動に対して適切に指導し、規律ある生活環境をつくっている。	A	A	生徒の様子を見守りと、シャボンロクなどの活用により、いじめや問題行動の未然防止に努める。情報を共有しながら学年や学校として適切に対応していく。	A	A
	学校は生徒の基本的な生活習慣を身に付ける指導に努めている。	A		教師自身が良き手本となり、適切なタイミングで適切な指導をこれからも心がける。		
	学校は道徳や普段の生活を通して自他の心や命を大切にし、豊かな心を育てている。	A		様々な機会(朝や帰りの学活・集会など)を通して内面を育てる支援を行っていく。また、道徳の授業研究も行い、豊かな心につながる授業を行う。		
	学校は生徒の悩みや相談に親身になって対応している。	A		生徒からの相談の受け皿を広げ、生徒が話しやすい雰囲気を心がけ、生徒の話をしっかり受け止める。アンテナを高くはり生徒の状況に気を配る。個々の生徒とゆっくと相談できる機会として、年2回の教育相談を継続する。		
	生徒会活動や学校行事は充実している。	A		生徒会活動など、生徒主体で進められるよう工夫し、学校行事を通して、生徒一人一人が達成感を感じられ、自己の成長を感じられるようにサポートしていく。生徒にとっての居場所がある学校となるよう、生徒一人一人に目を向け細やかな指導を心掛けたい。		
	学校は生徒の意欲的な生徒会活動や学校行事への参画を促している。	A				
学校関係者評価委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 朝の登校時、顔を見てしっかりと挨拶できる生徒さんが増えたように感じています。小学校でも年間を通して挨拶に取り組んでいるので、小中で一貫して、更によりよい姿につなげていけるとよいと思います。 学校評価では、いじめや問題行動に対しての対応について肯定的な回答が高くなっていますが、肯定的な回答になっていない生徒への支援を今後もお願いしたいと思います。 					

4 その他 学校関係者評価委員からの意見

<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度全国学力・学習状況調査から、将来の夢や目標をもっていますかという項目で、肯定的な回答が53.4%という結果を見て少し低いように感じました。 生徒主体で取り組んでいる生徒会活動や学校行事の様子を小学生が見る機会があったり、交流することができたりすると、小学校における自治的な活動が活発になるのではないかと期待しています。
